

第3回 女川町地域公共交通会議 議事要旨

1. 日 時：平成26年2月20日（木） 13：30～15：00

2. 場 所：女川町役場仮設庁舎2階 第2会議室A

3. 出席者

○委員

女川町	副町長	阿部 一正
女川町行政区長会	会長	齋藤 俊美
女川町社会福祉協議会	会長	阿部 恵子
ミヤコーバス株式会社	所長	山崎 強
(代理出席)	取締役	千葉 一彦
株式会社黄金バス	代表取締役	木村 洋之
株式会社黄金タクシー	代表取締役	木村 信雄
(代理出席)	副社長	木村 寛一
東北運輸局宮城運輸支局	首席運輸企画専門官	早川 勤也
宮城県東部土木事務所	技術次長	後藤 孝二
石巻警察署	交通課長	手島 俊明
宮城県震災・復興企画部	総合交通対策課長補佐	千葉 恵子
公立学校法人宮城大学	教授	徳永 幸之

4. 議事要旨

○事務局より開会

- ・ただいまより第3回女川町地域公共交通会議を開催させていただきたいと思っております。本日は年度末のお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本日の地域公共交通会議の開催にあたり阿部副町長よりご挨拶を賜りたいと思っております。

○会長挨拶

- ・お忙しい中、本日もお集まりいただきありがとうございます。女川町地域公共交通会議について、本日で第3回目ということになります。昨年の12月に開催された会議では公共交通ネットワーク計画の方向性についてご審議をいただき、ご了承をいただきました。その後、1月になって地区代表者懇談会を開催し、行政区長の方々にもこの方向性について説明して、ご了解をいただいたところです。
- ・本日3回目で、予定では本年度最後の地域公共交通会議ということになります。女川町地域公共交通ネットワーク計画案のまとめについてご審議いただく予定となっておりますので、よろしくお願い致します。皆さまには忌憚のないご意見を出していただき、より良い計画ができるようお願い致します。

○事務局より議事説明

- ・本日ですが、ミヤコーバス株式会社について取締役で石巻登米地区支配人の千葉一彦さん、それから株式会社黄金タクシーについて副社長の木村寛一さんが代理でご出席いただいていることをご報告させていただきます。
- ・それでは議事に入らせていただきます。議事の進行については、女川町地域公共交通会議設置要綱第5条及び第6条の規定に基づいて会長である阿部副町長が議長となり、議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

○議長

- ・それでは次第に基づき進めさせていただきます。本日の議事として2件予定されています。議事1で本日のメインとなる地域公共交通ネットワーク計画案について、事務局から説明をお願いします。

○事務局より資料説明

- ・女川町地域公共交通ネットワーク計画案について説明した。

○議長補足説明

- ・地域公共交通ネットワーク計画の全体像と運行計画について説明していただきました。重要な点としては26年度の運行について、町内循環便を現在の1台体制から2台体制で運行するという事です。あと幹線についてはバス停車場所の間隔を短くして、支線についてはフリー乗降区間を設定していくところだと思います。また復興計画に合わせて3段階として、26年度について当面の見直しを行い、27年度から29年度に再度、見直しが必要となり、最終年度の30年度に最終計画書を示す計画になっています。また料金についても26年度は無料継続ですが、補助事業が終了する28年度以降を考慮して26年度に有料化の検討を行う必要もあるということを考えています。色々と皆さまからご意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○委員A

- ・フリー乗降区間について3箇所を設定していますが、その中で、清水・新田ですが、幹線道路ほどではありませんが、比較的交通量が多い区間です。フリー乗降区間にするよりは安全な場所を3~4箇所設定してバス停車場所とした方が安全が高まるかと思います。

○事務局

- ・フリー乗降区間の設定については、交通環境や交通状況を見極めて、また実際に運行していただく交通事業者と相談しながら決定すべきと考えています。清水・新田は、工事車両など色々な交通が入っているので、バス停車場所を設定して安全な場所で乗り降りした方が良いという考えもあります。そういった部分などに留意しながら運行計画を見直していきたいと思っています。

○議長

- ・現状ではまだわからないため、今後の検討ということになると思います。その他いかがでしょうか

か。

○事務局

- ・ミヤコーバス女川線の石巻赤十字病院までの延伸時期はいつの予定でしょうか。

○委員 B

- ・26年4月の新年度からは間に合わないため、夏ごろを想定しています。
- ・1日の運行本数は、トータル8便のうち、石巻赤十字病院方面については朝の時間帯に2便、女川方面については、午後3便を予定しています。

○委員 C

- ・新町内循環便ですが、1時間程度の休憩時間がないので、1日に2人の運転手で運行することを想定しているのでしょうか。

○事務局

- ・2便から3便の間に50分程度、休憩時間を確保しているところですが、まだ確定のダイヤではありません。運転手の休憩時間をどこで確保するのかというところと、ほかの路線とのダイヤ接続ができていない部分に限られた路線ではありますが、ミヤコーバス、JR、離島航路との接続を考慮しながら、また一方で利用者の目的別の往復を考えつつ、運転手の休憩時間を確保するというところで、概ねこのくらいの配分かなというダイヤ案として見ていただければと思います。その中で、法に抵触しない範囲で運行していくことは当然なので、そういった調整をしていきたいと思っています。

○委員 A

- ・3月末から4月にかけて陸上競技場跡地に災害公営住宅200戸が完成予定となっています。町内循環便は、現在マイクロバスで運行していますが、1便目の利用者数が結構多い状況です。新しいダイヤに切り替わる前の問題なのかもしれませんが、4月以降、利用者が乗り切れなく可能性などは想定しているのでしょうか。

○事務局

- ・町内循環便の第1便は7時35分に総合体育館を出発する便となっています。通勤時間帯と合うため、バスとすれ違う際に何人程度、乗車しているのかを確認しています。日によって多少異なりますが6~7人という状況です。そこから乗降する利用者もいるので、最大でどのくらいの人数が乗車しているのかは把握できていないのが現状ですが、総合体育館のバス停から出発する段階では6~7人ということなので、災害公営住宅が完成してからの状況を見ていきたいと思いますが、全員が自動車を持っていない状況ではなく、駐車場も各家庭に1台分ということにもなっているので、どのような状況になるのか注視する必要があるつつも、現在の状況からすれば大丈夫かと思っています。

○議長

- ・しかし、3月末に災害公営住宅が200戸完成し、約400人がそこに居住するため、ボリュームが変化するのではないのでしょうか。

○委員A

- ・町内循環便の第1便全体では約40人が乗車しています。ただ途中の地域医療センターで多くの利用者が降車し、その後のバス停車場から乗車してくるので定員オーバーはしていない状況です。しかし、200世帯が一気に来るとどのような状況になるのかという心配はしています。

○事務局

- ・陸上競技場跡地の災害公営住宅への入居は4月の中旬から下旬くらいになると思います。総合体育館周辺のエリア内での仮設住宅からの移動が約50世帯ほどなので、増えても150世帯くらいかと思います。
- ・災害公営住宅への入居後、どのくらい利用者が増加するのかは注視していき、もし定員オーバーが発生するようであれば、対策はとりたいと思います。

○議長

- ・その他いかがでしょうか。概ね、要望は出たでしょうか。

○委員D

- ・運行ダイヤ案ですが、離島航路との接続について、これまでは離島航路から町民バスへの接続は良かったのですが、町民バスから離島航路への接続がなく、総合体育館で降車している状況でした。会議の中での意見を反映していただきありがとうございます。町内循環便が2便体制になり便利になったと思います。

○事務局

- ・現在、車両の方はまだ3台しかない状態です。4月以降の新年度に車両を購入したいと思いますので、7～8月の夏には新しいダイヤに切り替えていきたいと思っています。

○委員E

- ・運行ダイヤについては、もう少し調整が入るということですが、石巻仮設住宅便について、今のダイヤ案だと折り返しまでの時間がほとんどない状況なので、もう少し余裕があった方が良いと思います。その一方で、新町内循環便の方ですが、運転手1人では正直難しいと思います。

○事務局

- ・1人体制なのか、2人体制なのかについてはまだ決定していない状況ですが、このダイヤ案で運行するのであれば2人体制だと考えています。

○委員E

- ・新町内循環便については、折り返しまでの時間がほとんどなく、なおかつフリー乗降区間を入れ

るので、ダイヤが乱れる可能性が大きく厳しいと思います。その原因の一つは、色々な場所を1台でカバーしようとしているため、路線の距離が長いことだと思います。利用者としても清水・新田から浦宿まで50分程度かかり、路線を乗り継いだとしても同じくらい時間がかかると思います。しかも、まだ当面の段階なので、視点から終点まで1時間程度で行くことができますが、将来的に街が変化・拡大していく中で考えると、さらに問題になってくると思います。

- ・早急にはいい解決案は出ないと思いますが、路線形態を考えていく必要があると思います。このまま災害公営住宅等の高台への経路を続けていく形で対応した場合、結局、使い勝手が悪く、あまり利用してもらえない路線になりかねないと思います。利用者から見て、一度、使えないと思われるしまうと、改善しても使ってもらえない危険性があると思います。

○事務局

- ・いくつか方法はあると考えています。例えば、石巻仮設住宅便の出発が現在、総合体育館になっていますが、その便で清水・新田をカバーして新町内循環便ではそこは割愛するとか、あと宮ヶ崎は新町内循環便でカバーしていますが、実は北浦便の沿線でもあるので、北浦便でカバーするとか、いくつか調整の余地はあると思っています。そういった調整の中で、特に新町内循環便のダイヤについて改善しつつ、ご指摘いただいたとおり、将来、大変な運行条件になると思いますので、将来を見据えた運行で始めていきたいと思っています。夏ごろの改正までには具体的に決めていきたいと思っています。

○議長

- ・ダイヤ改正については、今後、微調整が必要だと思います。

○委員D

- ・バス路線のナンバリングを行うと、利用者がわかりやすいと思います。

○事務局

- ・資料の中に示していますが、バス車両に行き先を表示させることを検討していますので、ナンバリングについても検討したいと思います。

○議長

- ・資料の中で利用促進策を示していますが、このあたりについては平成26年度からすぐに実施というわけではなく、対応できることから対応していきたいという考えが良いでしょうか。

○事務局

- ・今年度計画を策定して、次年度は路線を新しくするので、わかりやすいような形で広報することを考えています。次の議題にも関連してきますが、利用者から時刻表やルートがわかりづらいという意見をいただいているので、今回の路線変更にあたり、利用者の混乱を招かないような、わかりやすい表記を考えています。路線変更を夏ごろに予定しているので、それに向けて準備を進めていきたいと思っています。

○議長

- ・バスを利用してもらうための利用促進策は、どのタイミングで実施するのでしょうか。

○事務局

- ・ひとつは、バス路線の見直しについての広報案内で次の議題にもなってきます。もうひとつは、今回、町が変わる中で公共交通を軸としてマイカーに頼らない生活で、これからの高齢化社会を考えて、公共交通が住民を支えるという形にしていきたいと考えています。有料化のタイミングもひとつですが、その前に無料で運行している間に沢山利用していただき、そこから有料化していくというやり方もあると思います。来年度は路線の大幅な見直しになるので、広報案内にとどめておき、再来年度以降、具体的に利用促進を進めながら有料化の準備をしていくという流れを考えています。

○委員 E

- ・利用促進についてはマイバス意識につなげることが考えられると思います。例えば、和歌山では駅のホームの出入口に地元住民が寄付をしたベンチがあり、そこに寄付した人の名前が記載されています。地域住民が使わなくなった椅子を提供して、ベンチの代わりにしている取り組みです。このように普通のベンチを整備しつつ、地元住民にも出資してもらい、出資者の名前に残すというような取り組みもあります。
- ・三陸鉄道でも資金を集めていますが、寄付した人の名前をプレートに埋め込んだりする取り組みを全国から募集して 2,000~3,000 万円という寄付が集まってきているようです。地域住民に自分たちが関わって運行しているバスだという意識を持ってもらうことも必要だと思います。

○議長

- ・行政だけの仕事になってしまうと、地域住民との意識の差が出てきてしまいます。そういった部分では会社や町内会の名前などを示すことも考えられるかと思います。

○委員 B

- ・離島航路ターミナルはどのあたりに整備されるのでしょうか。

○事務局

- ・離島航路ターミナルは、震災前に整備されていた場所に整備する計画になっています。

○議長

- ・その他、ご意見はありませんか。それでは地域公共交通ネットワーク計画案ということですが、示された計画案で了承ということで良いのでしょうか。(委員から了承の声) ありがとうございます。
- ・それでは次に、議事 2 の平成 26 年度の運行見直しの広報・PR 計画について、説明をお願いします。

○事務局

- ・平成 26 年度の運行見直しの広報・PR 計画について説明した。

○議長

- ・平成 26 年度の運行見直しの広報・PR 計画に関する方法などが示されましたが、こういった方法もあるなどのご意見があればお願いしたいと思います。

○委員 F

- ・広報するのは、路線図と時刻表ということでしょうか。

○事務局

- ・現在、配布しているのは時刻表のみです。今回、石巻仮設住宅便と新町内循環便にわけるということで、それぞれの便がどのように運行するのかがわかりにくいと思うので、路線図も含めて示していきたいと考えています。

○委員 F

- ・A4 サイズの場合、大きすぎて使いにくいと思います。JR の時刻表のように折りたためるようになっていれば、携帯しやすいかと思います。

○委員 E

- ・ひとつだけで全ての情報を網羅することは難しいので、自宅などに貼る用と持ち歩く用などに分けることも考えられると思います。

○委員 F

- ・バスで出かける際、時刻表を持っていこうと思うので、携帯できるサイズがあれば良いかなと思います。

○委員 E

- ・A4 を縮小すれば良いだけなのか、それともイラストなどを省いて文字の大きさは変わらない方が良いのかなどが考えられます。

○議長

- ・各家庭には大きいサイズのものを配布しても良いと思いますが、例えばバスの車内にコンパクトサイズを置いておくなども考えられます。

○委員 D

- ・各世帯に路線図や時刻表を示したチラシなどを配布すると思いますが、資料では両面印刷になっています。そうした場合、見にくいのでできれば片面で印刷してほしいと思います。

○委員 E

- ・利用する側からすると、A3 折りたたみでも良いかと思います。

○事務局

- ・費用面との問題もあると思いますが、皆さまの使い勝手が良いようにしたいと思います。先ほどの資料の中で、路線図のイメージとして八戸市のバスマップを示していますが、折りたたむとポケットに入るサイズで、ミウラ折りという特殊な折り方になっています。折り込みが簡単で開いたり閉じたりできるという折り方を採用している例ですが、これだと少し費用がかかってきます。そこまで費用をかけて作成すべきなのかも含めて、事務局内で調整しながら進めたいと思います。

○委員G

- ・情報を詰め込みすぎると、あまり見てくれなくなってしまう可能性もあるので、難しい部分だと思っています。

○事務局

- ・女川町についてはこれから色々見直しをかけていかなければならないので、あまり立派なものを作成すると、毎回費用がかかるということになるので、コスト面も見極めながら良いものを作成していきたいと思っています。

○委員E

- ・JRの時刻表に関しては、作成はJRですが、印刷費はほかの会社からの広告費で賄っています。

○議長

- ・議事2の広報・PR計画について、委員の皆さまから色々なご意見をいただきました。費用と相談して対応できることと、できないことがあると思いますが、極力わかりやすいものを作成することをお願いしたいと思います。広報・PR計画について了承ということで良いでしょうか。(委員から了承の声) ありがとうございます。それでは議事1と議事2は終了ということでよろしくをお願いします。その他として事務局から何かあればお願いします。

○事務局

- ・資料は用意していませんが、町役場に来られる際の信号機の脇に、女川まちづくり情報館という震災復興の状況を説明するような仮設の情報交流館が2年間限定で完成します。3月15日に開業される予定です。被災地の中では初めての施設で、女川町の復興状況がわかる施設になっています。来月に開業するというので、情報提供をさせていただきました。事務局からは以上です。

○議長

- ・その他として、委員の皆さまから何かあればお願いします。特にないようなので、進行の方を事務局にお返しします。

○事務局

- ・委員の皆さま、長時間にわたるご審議ありがとうございました。本日もご審議いただき、ご了承いただいた地域公共交通ネットワーク計画に基づき、次年度の運行見直しに向けて事務を進めています。

きたいと思います。来年度、新しい車両を購入して、町民バスの見直し運行の開始は夏ごろを予定しています。来年度の中でも、見直し運行について利用者がどのように捉えているのかなどを調査していきたいと思います。その調査結果が出るあたりに、また皆さまにお集まりいただき、ご審議いただきたいと思います。

- 本日は年度末の大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。以上で第3回女川町地域公共交通会議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。